

## 会 議 議 事 録

|           |  |
|-----------|--|
| 1 会議名     | 令和3年度長岡市教育委員会事務評価委員会   |
| 2 開催日時    | 令和3年6月30日（水）午前10時から午前11時25分まで  |
| 3 開催場所    | さいわいプラザ 4階 教育委員会会議室  |
| 4 出席者名    | <p>（委員）</p> <p>熊倉委員長 渡辺副委員長 高野委員</p> <p>（説明のために出席した職員）</p> <p>金澤教育長 安達教育部長 水島子ども未来部長</p> <p>水島教育総務課長 吉田教育施設課長 青木学務課長</p> <p>中山学校教育課長 涌井学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>小畑学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>神林学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>佐藤中央図書館長 小熊科学博物館長 田中子ども・子育て課長</p> <p>恩田保育課長</p> <p>（事務局）</p> <p>江田教育総務課長補佐 内藤教育総務課庶務係長</p> <p>今井教育総務課主査 本田教育総務課主査</p> |
| 5 欠席者名    | なし   |
| 6 議題      | <p>(1) 令和2年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について</p> <p>① 教育委員会会議の開催及び審議状況等について</p> <p>② 教育委員会における事務の点検・評価について</p> <p>(2) その他</p>   |
| 7 審議結果の概要 | <p>資料に基づき、令和2年度に教育委員会が実施した各種事業等について、担当課長が委員に説明し、委員からの質問に回答した。</p>  |

| 8 審議の内容  |  |
|----------|--|
| 水島教育総務課長 | 1 開会   |
| 金澤教育長    | 2 教育長あいさつ  |
| 水島教育総務課長 | 3 事務評価委員紹介   |
| 水島教育総務課長 | 4 事務局職員紹介  |
| 熊倉委員長    | 5 議事   |
|          | (1) 令和2年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について  |
|          | ① 教育委員会会議の開催及び審議状況等について  |
|          | ・ 資料に基づき事務局が説明   |
|          | ・ 質疑応答   |
| 渡辺副委員長   | (意見) ホームページで議事録を見ると、教育委員会会議について、教育委員が一生懸命考えて、事務局の方々とやり取りしている様子が伝わる。そこでは、教育委員は私たちの大事な代弁者であることがわかると思う。今後、より多くの市民に議事録を見てもらえるような工夫があるとよい。  |
| 高野委員     | (意見) 議事録を掲載している箇所までの階層がとても深く、見つけにくい印象を受けた。検索をすれば見ることができるだろうが、そこまでする人は果たしてどのくらいいるのだろう。現状、会議に関心がある人は見るが、そうでなければ見る状況にはないと思う。これは教育委員会に限ったことではないが、求めているものに到達するまで時間がかかるというのは課題であり、今後の工夫は必要だと思った。 |
| 水島教育総務課長 | (回答) ご意見として承りたい。議事録内容については、学校に関連したものであれば、校長会の場も活用して発信したい。また、ホームページの構成に関しては、現状として様々な項目が多数あるなか、改善できる点は取り組みたいが、全体のバランスもあるので持ち帰って検討したい。  |
| 高野委員     | (質問) 定例会開催の記述で、これらはすべて対面で開催したものなのか。  |
| 水島教育総務課長 | (回答) 会議室で対面して開催した。   |
| 高野委員     | (質問) 昨年の新型コロナウイルス感染症拡大状況では、大人数で集ま  |

|             |  |
|-------------|--|
| 水島教育総務課長    | <p>ることは困難だったと思うが、あえて対面での開催としたのか。また、オンライン会議は検討したのか。</p> <p>(回答) 会議に出席するのは説明者のみとし、間隔を取りつつ、窓を開けるなどの感染症防止対策を取ったうえで開催した。オンライン会議については、全く検討していなかったわけではないが、学校訪問など、現場を見ることも非常に大切にしており、会議室に集まることを第一に考えた。</p>   |
| 高野委員        | <p>(質問) 令和2年9月定例会における協議報告事項に児童クラブ人身事故に係る和解及び賠償金の支払いとあるが、今後どのように取り組むに至ったのか。</p>   |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) この事故を受け、当該児童クラブの館長、厚生員、関係者に事件概要を周知し、すべての児童クラブの関係者と共有して、まずは2度と起こさないための再発防止として、安全安心に係るチェックリストを作成・配布するなどの対策を講じた。</p>  |
| 渡辺副委員長      | <p>(意見) 児童館長やコミュニティセンター長がいつもいるわけではないため、事件や事故が起きた時には、施設ごとに責任者までの伝達方法を含め、災害時と同様に、咄嗟の対処方法を代行員や厚生員がきちんと理解していないといけない。そのため、現在は毎年研修を実施している。</p>   |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 現在、基礎研修・交流研修に力を入れ、救命救急も行っている。この事故については、館長が傍にいて、機転を利かせて対応した。今後も引き続き、気を引き締めて取り組みたい。</p>  |
| 高野委員        | <p>② 教育委員会における事務の点検・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に基づき事務局が説明</li> <li>・ 質疑応答</li> </ul> <p>【1 郷土愛の醸成による人材の育成】</p> <p>(意見) 教職員アンケートの実施について、成果及び今後の取組等にも「アンケートの活用状況を踏まえて」とあるが、このアンケートの内容・特徴とその結果はどのようなものか。そして、どのように活かしたのか。</p> |
| 中山学校教育課長    | <p>(回答) 内容としては、学校現場で活用する際に工夫している活用例、教職員の活用の事例を項目にしてアンケートを取った。工夫している活用例として、夏休みの自由研究、自宅学習、朝読書、学校新聞などがあつた。また、新任職員のガイドブックに使ったり、地域のことをよく知るためのフィールドワークの参考にしたりし</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
| 渡辺副委員長      | <p>ている。今後は、長岡の伝統や歴史、産業を意識しながら子どもたちに伝えていけるように、有効活用を図っていきたくと考えている。</p> <p>(意見) アンケートを実施したという記載のみで、実施する目的がないため、ひと言その記載があるとよいと思った。</p>   |
| 渡辺副委員長      | <p>(意見) コロナ禍では、旅行などで遠くに行けない分、近場である地元の歴史を知ろうと歴史的施設や博物館を見に行く機会が増えたと思う。そのときに、まずインターネットで検索すると思うが、ホームページの掲載内容が古かったり、関連ページに飛ばなかったりといったことが見受けられたため、早めの整理が必要と思われる。また、民俗芸能の動画配信について、李崎と土合しかなかったが、今後はその他の地域も網羅することになるのか。</p> |
| 小熊科学博物館長    | <p>(回答) ホームページについて、今年度は新型コロナウイルス対策として、動画の配信を含めたリニューアルを検討している。また、民俗芸能については、公式SNSを使って各芸能団体の舞や神楽を配信しているが、今後、数を少しずつ増やしていく予定である。</p>  |
| 渡辺副委員長      | <p>(意見) 私は、市民活動の補助金申請の受付をしているのだが、70歳代、80歳代の方の相談では、「地元の芸能を保存していきたいが、なかなか若者が入ってこないため、自分たちで残していくために補助金を使いたい」というものが多い。このような相談に対して、ほかに支援や補助金等はあるのか。</p>   |
| 小熊科学博物館長    | <p>(回答) 科学博物館では指定文化財を主に扱っているが、民俗芸能のなかには指定文化財となっていないものも多く、そのような場合には民間の財団の助成制度をお伝えすることができる。</p>  |
| 渡辺副委員長      | <p>(質問) 動画を残すために補助金を申請する団体があった場合には、これが指定文化財であれば、科学博物館を利用・活用できるということか。</p>  |
| 小熊科学博物館長    | <p>(回答) 現在は、指定の有無に関わらず、長岡市の民俗芸能協会の加盟団体を主に配信しているので、今後は支所地域の団体も含めて増やしていきたいと考えている。</p>  |
| 渡辺副委員長      | <p><b>【2 子ども・子育て支援の充実】</b></p> <p>(質問) 先日プレオープンした『越路ていしゃば交流施設こころて』では、1階のフードコートの一部を寺子屋形式にして、無料で子ども見守りを行うと聞いたが、同様の施設の情報はあるのか。</p>  |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 情報は少なからず入ってきている。その他に、子どもみらい食</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
| 渡辺副委員長      | <p>堂の活動なども聞いている。</p> <p>(質問) 先日、私が受けた相談で、夏休みに1人で過ごすことが多く、孤食になってしまうのでどうにか解消したいというものがあつた。その方は、夏休みの期間だけ子ども食堂みたいなものを始めたいと話していたので、参考に現在行われている事業の話を知いたり、ノウハウを学ぶのはどうかと勧めたのだが、夕方ではなく、日中に食事を作って配付するといったものはあるのか。</p> |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 補助制度やフードバンクといったネットワークもあるので、ぜひ相談してほしい。また、様々な形態があつてよいと思う。</p>  |
| 高野委員        | <p>(質問) 宿泊型産後ケアは素晴らしい取組だと感じた。実績は3人ということだったが、どの程度の人数を想定していたのか。</p>  |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 宿泊型産後ケアは、小千谷総合病院とタッグを組んで実施したものである。予算としては、5人が4日程度利用すると見込んでいたが、実績は3人で延べ19日とほぼ想定通りの利用だった。上限7日まで利用できるということで、利用者から良かったという声があつた。</p>   |
| 高野委員        | <p>(質問) 今後、病院施設を拡大することは考えているか。</p>   |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 制度の導入にあたり、産科がある市内の病院にも事前相談したが、病床数から実施は難しいという回答があり、近隣で実施できるのが小千谷総合病院だけだった。今後は、協力いただける病院が出てくれば検討したい。</p>   |
| 渡辺副委員長      | <p>(意見) 昨年度の意見が反映され、昨年度の人数の記載があることで違いが分かるようになり良かった。</p>  |
| 熊倉委員長       | <p>(意見) 昨年度と比較できるのはよいと感じた。コロナ禍で各種事業は中止になり、人数や件数が減ることはわかりきっていることであるが、その分析がきちんとされていてよいと思う。</p>   |
| 高野委員        | <p>(質問) 家庭児童相談員等の対応について、相談件数が令和元年度より減っている。しかし、コロナ禍で逆に相談件数は増えているのではと思ったが、相談件数が減少した理由は何か。</p>  |
| 田中子ども・子育て課長 | <p>(回答) 理由としては、令和2年3月から5月まで子育ての駅を閉館していたことの影響があつたと見ている。また、巡回相談も実施できなかったことも影響しており、令和元年度実績では、83回まわつて315人だったのに対して、令和2年度は63回まわつて162人だった。</p>  |
| 高野委員        | <p>(質問) 300人規模の研修会開催は難しいと判断し、中止した代わりに資料を配布した成果が書いてある。今後も300人規模の開催は難しいと思</p>  |

|                      |   |
|----------------------|---|
| 恩田保育課長               | <p>うが、オンライン開催など含め、どのように考えているのか。</p> <p>(回答) 大きな会場であっても、密になることは好ましくないため、今年度の研修実施もオンラインを使い、工夫するよう取り組んでいるところである。引き続き、従来型の研修は見直し、工夫して取り組んでいく。</p>   |
| 高野委員                 | <p>(意見) 「特別支援教育ガイダンス」の資料をホームページで見たが、わかりやすく整っていた。今後はSNS配信もできるとよいと思った。例えば、公式SNSで画面を見せながら話すようなことを10分や20分配信するといったことも良いと感じる。</p>   |
| 渡辺副委員長               | <p>(意見) SNS配信は必要だと感じている。また、動画の撮り方について講師をしたいという若手もいるので、今後、検討や活用いただけたら良いと思う。</p>  |
| <b>【3 質の高い教育の推進】</b> |   |
| 熊倉委員長                | <p>(質問) GIGAスクール構想を着実に進めているなか、ICTを活用した教育は必ず必要になると感じており、いち早く体制を整備したと思うが、GIGAスクールサポーターと従来のICTサポーターの違いは何か。また、教員や子どもたちの声など、配置したことによる効果はどうであったのか。</p>  |
| 中山学校教育課長             | <p>(回答) GIGAスクールサポーターは、1人1台タブレットの整備の計画前倒しに合わせて、その取扱い、起動方法、アカウント取得時の補助などを担い、学校を巡回するかたちで配置した。なお、補正予算で対応しており、配置が完了した学校から順次、サポートに入っていた。また、ICTサポーターは、パソコンルームでの学習支援として2週間に1度程度学校を訪れるもので、この2つは異なる支援内容である。また、導入して3か月経過するが、教育センターでの研修も含め、各校の状況を把握し、チェックリストを活用しながら、どのような操作ができると有効活用が図られるか現場に示している。今後、各指導主事を中心にサポートしていきたい。</p> |
| 熊倉委員長                | <p>(意見) 1人1台のタブレットを児童生徒が同時に使用すると、学校によっては回線が混み合うといったことが起こるので、教育委員会としても現状を把握しながら、細やかな支援をお願いしたい。</p>   |
| 水島教育総務課長             | <p>(回答) 一斉使用によるボトルネックについては、データセンターを経由して、まとまったものがインターネットに接続することになっていることから、データを集約するとどうしても速度が落ちる。</p>  |

|          |  |
|----------|--|
| 高野委員     | <p>そのため、今年度の工事により、学校から直接インターネットに接続するような回線を作っており、これにより速度が落ちることを解消できる見込みである。</p> <p>(意見) 昨年、タブレット導入した表町小学校では、導入時期が早く、担当する先生も機器に詳しかった。授業参観の様子でも授業に溶け込み、うまく活用しているという印象を受けた。反対に、他の学校では活用するまでに時間がかかり、現場の先生が表町小学校の活用状況を参考に見に来ていたようだが、お互いの学び合い、特に活用方法を現場で学ぶことはとても重要だと思う。一部の学校だけの活用が進むことなく、平準化が図られていくと良いと感じた。</p> |
| 中山学校教育課長 | <p>(回答) 複数年にわたり活用方法を検討していくとともに、そのなかでも長岡らしい活用方法を意識して取り組みたい。</p>   |
| 渡辺副委員長   | <p>(意見) ながおか若者しごと機構が、小学生に対して、プログラミング教室を開催していたが、長岡の中心地の学校の限られた人数しか受講できなかったようだ。その後、サポートしていた IT 組合が、自分たちで支所地域に出向いてプログラミング教室を始めるといった話があった。一部の学校だけでなく、押し並べて同じような体験ができればよいと思う。そのためにも、企業と連携・協働しながら進めていくことが必要だと感じた。</p>  |
| 中山学校教育課長 | <p>(回答) 現場の支援とともに、4大学1高専、企業とも連携して、長岡らしい取組を検討していきたい。</p>  |
| 熊倉委員長    | <p>(意見) タブレット導入前は、先生に教えられるのか不安や心配があったが、子どもたちも使いこなすようになってきており、先生もお互いに学び合っているところがある。教育委員会としては、これを後押しすることと環境整備に取り組むことが大事である。</p>  |
| 渡辺副委員長   | <p>(意見) 専門学校等とも連携して行ってほしい。</p>   |
|          | <p><b>【4 生涯にわたるまなびの場の充実】</b><br/>       質疑なし</p> <p><b>【新型コロナウイルス感染症に係る主な取組・対応】</b></p>  |
| 渡辺副委員長   | <p>(意見) 取組や対応がまとめられていて、よくわかった。今後、同様の事態が生じて、当時はこのように工夫して取組んだということが残せる。ただし、今後は、このような取組に対する評価の仕方</p>  |

|        |  |
|--------|--|
| 高野委員   | <p>が課題であり、どのように評価すべきかがどの分野でも問われることになる。このような前例を作ることでプラスに波及し、他の手本となると良いと感じた。</p> <p>(意見) 対外的な業務にも丁寧に対応していることがよくわかった。今後は、定例会のような内部で実施するものについても、感染症の状況に応じた取組を期待する。私自身は、この事務評価委員会の会議に参加することも、この庁舎がワクチンの接種会場になっていることから、人の出入りが多く不安を感じていた。そのため、オンライン会議でできるものは可能な限り対応してほしい。今後も状況により、オンライン会議への切り替えを検討してほしい。</p>  |
| 熊倉委員長  | <p>(意見) 丁寧にまとめられていて、それぞれの施策・対応がどのように子どもたちや教員、現場、担当に届いているのかわかる。成果としても、休校や予定の変更に対して、子どもたちが自分のこととして、自分の頭で考えて、どのように行動したらよいかという点を見て取れたということは素晴らしいことだと感じた。やはり、教育行政というのは子どもの姿を見て語らなければならないと感じている。これからのことも考えて、このような取組を積み重ねてほしい。</p>  |
| 渡辺副委員長 | <p><b>【全体を通しての質問・意見】</b></p> <p>(質問) コミュニティ・スクールについて、教育委員会定例会の議事録で発言が出ていたが、「長岡はもうすでにやってきている」とあり、私も同感である。コミュニティセンターを核として、中学校区で校長や生活指導の教員が入りながら、地域のことを考えて協議会を作っていることはわかる。一方で、一般の方に対しては、そのような仕組みがあることが認識されていないように思う。国からは作らなければならないとあるが、長岡版というところの説明をきちんと行わないと、なぜ長岡は取り組んでいないのかと捉えられてしまう恐れがある。そのため、すでに実施しているということを発信していく必要があるように思う。しかし、ただ単に作れば良いというものではなく、教育現場と地域はきちんとすみ分けなければならないところがあり、行政でやるべきこと、地域でやるべきことをはっきりさせないと一般の人はわからないことから、説明を丁寧に行い、形だけにならないように配慮してほしい。</p> |
| 金澤教育長  | <p>(回答) 形を作るために実がなくなることは避けなければならないと強く思う。そもそもこのコミュニティ・スクールのスタートは、大都市部からであり、学校と地域が乖離していて協働ができない状</p>   |



|        |  |
|--------|--|
|        | <p>況にあったところからであり、これがプラスの成果を出してきたところで全国に広げようという動きとなったものである。しかし、そこで出ている成果の内容は、長岡ではすでに行われているものと考えている。その実をなくすことなく、今までの足りないところは何かというと、いろんな方がいろんな形で学校に入るが、その学校がどのような子どもを育てることを目指しているのかというコンセンサスが取れていなかった。読み聞かせの人は読み聞かせのために、見守りの人は見守りのために行っている。しかし、例えば、この学校は子どもの自主性を伸ばしたいということを考えているということを示し、コンセンサスをもてば、読み聞かせのなかでもその部分を伸ばすための方法があり、見守りのなかでもそのようなやり方がある。そこを運営協議会のなかで実現したい。また、もう1つの長岡らしさというのは、協力者が多岐にわたり、その活動も多岐にわたっているため、例えば、教育委員会で一律に評議員を何人で会を作りましょうということは避けたい。これがまさに実をなくして形だけになるということである。そこで、今まで地域と学校でつながっている方たちのなかで会を作ってください、コンセンサスを取ってもらい、運営協議会を作る。これが、コミュニティ・スクールに移行するということである。そのように進めることが長岡方式であり、これをどのようにアナウンスするかであるが、一番のベースは学校だと思っている。つまり、学校長が地域に、そして、保護者にまず、「うちの学校はこういうふうなかたちでやっていく」と発信することである。教育委員会としてやることも大事だが、校長がすべきことだと考えている。これを統括して全市的に教育委員会として発信するということを考えていく必要があると思う。</p> |
| 渡辺副委員長 | <p>(意見) コミュニティ・スクールの単位として考えたときには、いくつかの小学校に1つの中学校となると思うが、それぞれの校長が連携できるのかが課題だと感じる。</p>   |
| 金澤教育長  | <p>(回答) まちなかは1つの中学校に5つの小学校というところがあれば、支所地域などには1つの中学校に1つの小学校というところもある。このように中学校区単位とするか、小学校区単位とするか、一律に決めることはできないと考える。その地域のこれまでの経緯や伝統を踏まえ、組織を作ることが重要である。例えば、中学校区で1つ作ったなかに、新たに小学校区単位でもう1つ小さな運営協議会を作ったり、小中学校区単位で1つ作ってたりしても</p>  |

